

第92期

中間事業報告書

2025年4月1日 ▶ 2025年9月30日



営業の概況



代表取締役会長CEO

八木 誠一郎

代表取締役社長COO

森 克則

株主の皆さまにおかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに2026年3月期中間期の事業の概況につきまして、ご報告申し上げます。

業績全般の概況

当中間連結会計期間の売上高は195億14百万円と、前年同期に比べ0.5%の減収となったものの、売上原価を抑えて売上総利益59億17百万円と前年同期比1億63百万円(同2.8%増)の増益となりました。

販管費ではデジタル関連費用などの増加はありましたが、全体としては微増にとどめて営業利益7億19百万円(前年同期比13.3%増)、経常利益8億79百万円(同25.5%増)、親会社株主に帰属する中間純利益6億2百万円(同27.6%増)となりました。

本事業年度は第7次中期経営計画(2023年度~2027年度)の3年目となります。第7次中期経営計画では、「技術を押出し、未来へワクワク」のスローガンのもと、3つの基本方針「循環型ビジネス拡大」、「強靱な収益基盤構築」、「成長を後押しする組織づくり」に基づいた取り組みにより、企業価値向上に努めています。

●循環型ビジネス拡大

循環型ビジネスでは、森林間伐材を活用した再生木材『プラスッド』が前年同期比37%増と大きく伸長しました。『プラスッド』は、まちづくり事業にも展開、以下の新ブランド・新製品を上市しており、これら屋外家具

製品を組み合わせせた複合的な空間デザインの提案により、新たな収益機会の獲得を目指します。

2025年4月 パブリックスペース向けデザイン家具『NEURAUUM(ノイラウム)』

同 7月 ソーラーLED屋外照明灯『ルメナイト』『ラヨビア』

同 8月 コントラクト家具『Lignimo(リグニモ)』

研究開発活動としては、当社グループが提供する高機能な建材を活用した文教施設の断熱改修実証プロジェクトを産学官連携でスタートさせました。この取り組みを通じて得ることができる断熱効果の実証データや施工性、コスト削減効果などの知見を活用することで、就学環境の改善に貢献したいと考えています。

また、欧州をはじめとするグローバル自動車メーカーの環境規制やサステナビリティ要求に対応するため、フッ素化合物(PFAS)を一切使用しない『光ガイディングバーPFASフリータイプ』を他社に先駆けて開発に成功し、2026年4月以降の量産開始を予定しています。

●強靱な収益基盤構築

断熱ニーズを捉えた高性能断熱材『フェノバード』の販売が好調に推移し、断熱材関連分野の伸長に貢献しました(前年同期比8.4%増)。また、工場・倉庫向け商品『PLANTOOL』の拡販なども進み、非住宅分野の収益に貢献しています(同7.0%増)。当社グループの高機能製品については、メーカーとしての製品提供という従来の役割に加えて、工事業の領域も見据えたトータルな事業戦略による収益基盤の強化を図ってまいります。

成長牽引分野の一つであるモビリティ分野においては、当社グループの技術を活かした提案活動が実り、自動車内装のイルミネーション部材などに使用される『光ガイディングバー』の販売が好調に推移し、売上増に貢献しました。

●成長を後押しする組織づくり

人的資本経営の取り組みとして、従業員の健康増進を図るべく、「健康経営優良法人」の取り組みを継続しています。多様な働き方を支援する施策として男性の育児休業等取得率が78.6%となり、制度の定着と活用が進みました。エンゲージメントサーベイのスコアは改善しましたが途上であり、改善に向けた取り組みを継続してまいります。

デジタルイノベーションの推進においては、DXを通じた競争力向上のため、今年度より、デジタル戦略室をデジタル戦略本部に改組し、全社的なDX戦略を加速させています。特に進化が著しいAIについては、「利用ガイドライン」を制定するとともに、活用に関する勉強会を順次開始しており、今後の展開として、AIを活用した新たな価値創造を目指す「AIチャレンジプロジェクト」をスタートさせる予定です。

セグメント別 売上高状況

(単位:百万円、%)

	前中間連結会計期間	当中間連結会計期間	増減額	増減率
建 材 事 業	12,529	12,333	△196	△1.6
C S E 事 業	4,975	5,002	27	0.5
精 密 事 業	772	803	31	4.0
グ ローバル事業	1,748	1,773	25	1.4

セグメント別の概況は、以下のとおりであります。

【建材事業】

中期経営計画における重点事業領域である断熱事業は前年同期比8.4%増、非住宅分野は同7.0%増となり、汎用品の売上高の減少(同5.3%減)をカバーしました。環境配慮型商品ブランド『Fukuvalue』についても、同17.3%増と順調に推移しています。

事業全体では、同1.6%の減収となったものの、原価低減や価格改定への継続的な取り組みにより収益性が改善し、営業利益で同1.4%の増益となりました。

【CSE事業】*

建築資材系OEM品の中では、床材、窓枠が伸び悩みましたが、非建築資材系OEM品のうち、インバウンド需要によりバスなどの大型車両向け部材が引き続き好調に推移し、事業全体では、前年同期比0.5%の増収となりました。利益面では、収益改善および生産性改善に向けた継続的な取り組みを実施し、営業利益で同117.4%の増益となりました。

※ CSEとは、Customer Satisfaction & Expectationの頭文字をとった造語であり、専門知識と技術力を駆使したセールスエンジニアリングで顧客のニーズや期待を上回る価値を提供し、顧客満足度と信頼度の向上を目指します。

【精密事業】

精密事業では、車載向け反射防止部材は前年並みに推移する中、カメラやセンサーなどの電子機器向け部材を中心に非車載分野が伸び、事業全体では前年同期比4.0%の増収となりました。製造ラインの生産性向上にも継続して取り組み、営業利益で同137.6%の増益と収益性が改善しました。

【グローバル事業】

グローバル事業では、ベトナム・タイの各現地法人の建材ビジネスが順調に推移しており、さらなる事業拡大に向けてASEAN地域での顧客開拓に注力しております。また、米国現地法人の建材OEM品や海外向け車両部材が好調に推移した結果、全体で前年同期比1.4%の増収となり、利益面では、経費削減により営業赤字が20百万円縮小されました。

資産、負債および純資産の状況

当中間連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ2億90百万円(前期末比0.5%)増加し、535億27百万円となりました。主な増減要因としましては、流動資産では、現金及び預金が5億11百万円減少、また売上債権が4億56百万円減少したことなどにより、8億96百万円(同2.5%)の減少となりました。固定資産では、投資有価証券が10億93百万円増加したことなどにより、11億86百万円(同6.7%)の増加となりました。

負債は、前連結会計年度末に比べ3億10百万円(前期末比2.0%)減少し、154億7百万円となりました。主な増減要因としましては、流動負債では、仕入債務が3億53百万円減少、また未払法人税等が1億15百万円減少したことなどにより、6億82百万円(同5.1%)の減少となりました。固定負債では、繰延税金負債が3億57百万円増加するなど、3億72百万円(同16.0%)の増加となりました。

純資産は、前連結会計年度末に比べ6億円(前期末比1.6%)増加し、381億20百万円となりました。為替換算調整勘定が1億23百万円減少した一方で、その他有価証券評価差額金が7億41百万円増加したことなどによるものです。この結果、株主資本合計は338億86百万円、自己資本は375億円となりました。成長戦略の一環として当社の子会社であるリフォジュール株式会社の株式を追加取得したため、非支配株主持分が3億5百万円減少し自己資本比率は70.1%となりました。

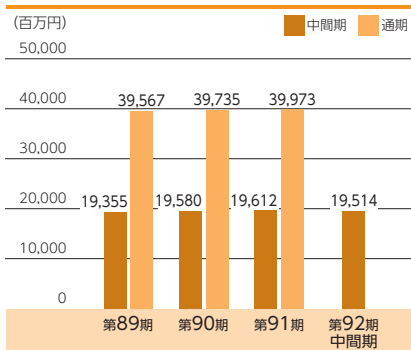
当中間連結会計期間の業績は、2025年5月13日公表の通期連結業績予想に対し、売上高および営業利益の進捗率がそれぞれ47.1%および33.9%となっております。当社グループの業績は下半期に需要が高まる傾向があること、また、増産体制整備などの施策を実行することにより下半期の売上高および利益のさらなる増加が期待できることから、現時点において通期連結業績予想を据え置いております。

なお、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。今後の経営環境を踏まえ、業績見込みについて見直しが必要と判断した場合には速やかに開示いたします。

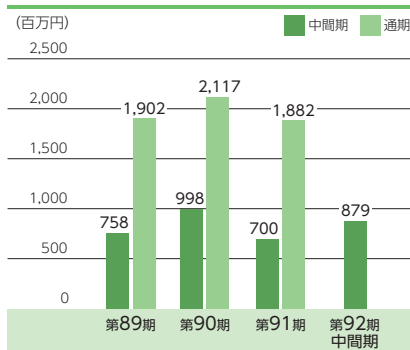
株主の皆さまにおかれましては、何卒一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2025年12月

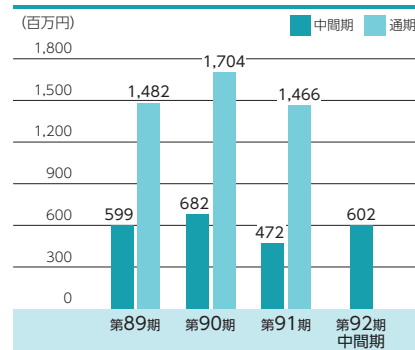
● 連結売上高



● 連結経常利益



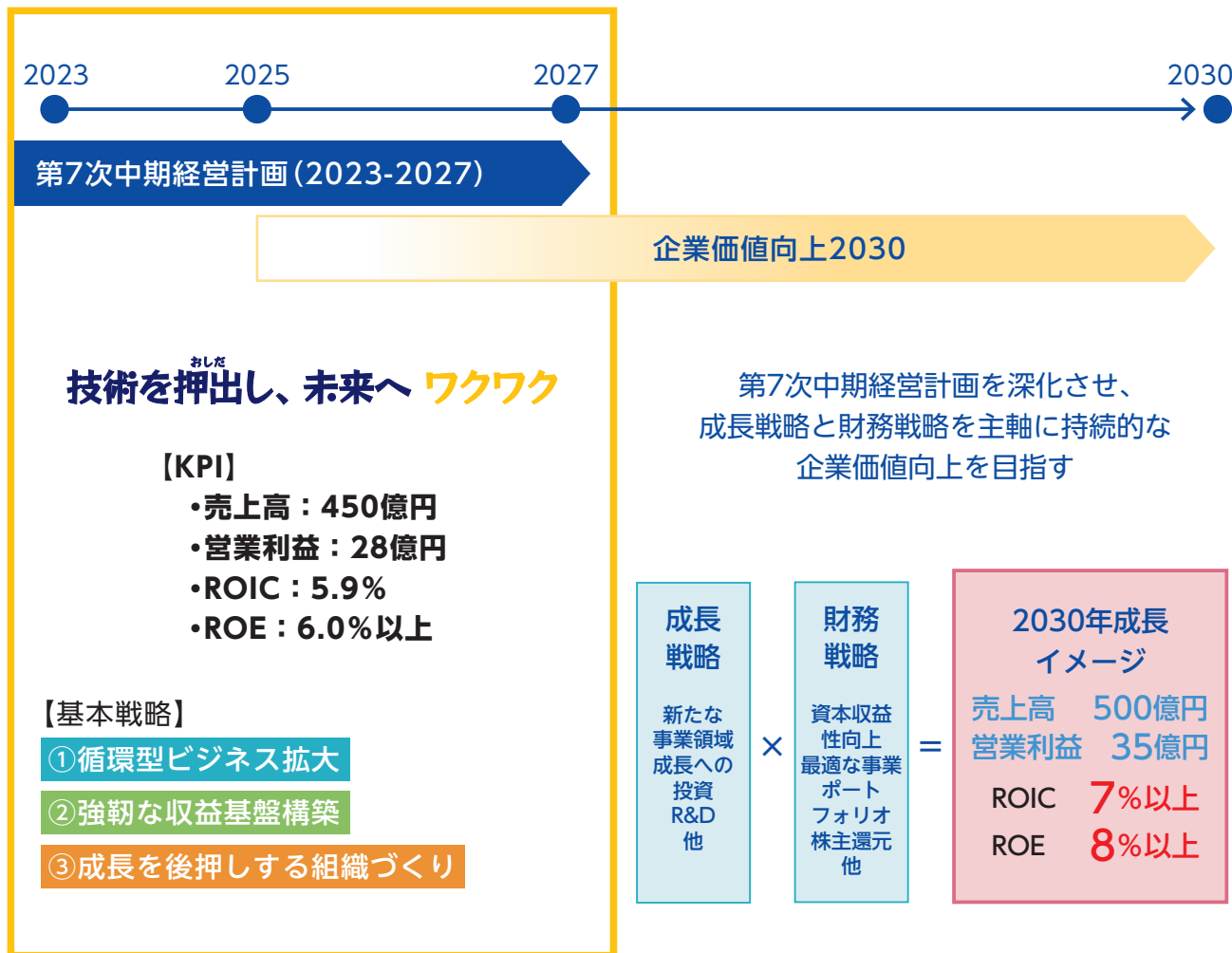
● 親会社株主に帰属する中間(当期)純利益



第7次中期経営計画(2023年度～2027年度)

中期経営計画策定以後の環境の変化を踏まえつつ、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて中期経営計画を深化させるべく「企業価値向上2030」を策定。

成長戦略と財務戦略を両輪で進め、中計最終年度の2027年度に「**ROE6%以上**」、2030年度には「**ROE8%以上**」の実現を目指す。



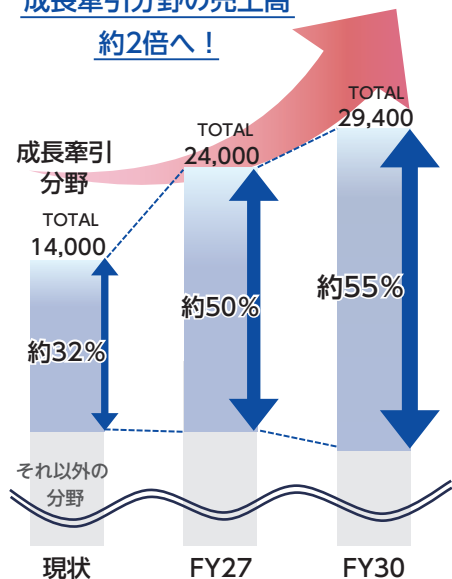
ROE向上への取り組み_成長構想

成長領域の拡大・収益力強化と併せて不採算部門等の縮小を実現しROE向上につなげる。

重点事業領域	成長牽引分野	開示セグメント				
		建材	CSE	精密	グローバル	その他
新たな住まい オフィス& ファクトリー   	高性能断熱建築物	●	●			
	リフォーム リノベーション	●	●			
	非住宅建築物(オフィス・ 工場・文教施設など)	●				●
	リサイクル	●	●			
	建築資材・OEM 海外	●	●		●	
	レンズ・カバー・機器等 国内・海外			●		●
モビリティ  	車載 (内装・ディスプレイ) 国内・海外		●	●	●	
インフラ 	海底ケーブル 土木/まちづくり		●			●

成長イメージ

成長牽引分野の売上高
約2倍へ！



※ 単位:百万円
 ※ 棒グラフ軸は売上高。セグメント間取引消去による調整額は考慮せず。
 ※ FY:Fiscal Year (会計年度)の略

「企業価値向上2030～資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて～」の詳細はこちらをご覧ください。

▶ <https://www.fukuvi.co.jp/application/files/1117/4289/1760/2030.pdf>



2025年5月～10月の主なTOPICS

産学官連携

廃校を活用した断熱改修実証プロジェクトを開始しました

福井県南条郡南越前町、福井大学との産学官連携の取り組みによる、文教施設での断熱改修実証プロジェクトを開始しました。

校舎等の老朽化対策は大きな課題

全国の公立学校施設の約6割は築40年以上を経過しており、昨今の猛暑・厳冬による児童・生徒の健康や学習環境への影響が懸念されています。

プロジェクトの概要

高性能断熱材『フェノバボードR』と樹脂製内窓『メルツエンサッシ内窓』を用いた断熱改修効果について、実際の文教施設を活用し、温熱環境の変化や、エネルギー効率の改善効果などの実証データを取得することにより、次世代型学校整備モデル構築を目指します。

断熱改修による猛暑・厳寒対策やエネルギー効率改善効果など、実際の教育現場に即したデータ検証に加え、施工工数・コスト削減やLCAに基づく廃棄物削減の効果検証も併行して進めており、プロジェクトを通じて得られた知見を体系化し、全国の自治体・設計事務所および教育機関へ展開することで、教育環境の改善と脱炭素社会の実現に貢献してまいります。



イノベーション

押出成形品としてPFAS（フッ素化合物）を使用しない

『光ガイディングバー PFASフリータイプ』を新たに開発しました

耐熱性・柔軟性・光の均一性に優れるライトガイド（導光棒）『光ガイディングバー』

LEDの光を透明樹脂で導光し、美しく上品な光を演出する、独自のイルミネーション部材です。

自動車業界においては、車内空間の快適性やデザイン性向上のため、アンビエントライトなどのイルミネーション部材としての需要が拡大しています。

PFAS（フッ素化合物）規制を巡る動向

PFASは耐熱性や撥水性に優れており、自動車業界のほか幅広い分野で利用されていますが、近年、環境や人体への潜在的リスクが問題視されており、欧州を中心に世界的に規制強化の流れが進んでいます。グローバル自動車メーカーやサプライヤー各社もサステナビリティ対応を加速させる中、PFASフリー技術を競争優位性と捉え、環境負荷を大幅に低減し、かつ従来品と同等以上の発光性能を持つPFASフリータイプの『光ガイディングバー』を開発しました。

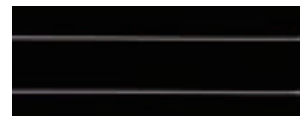
2026年4月以降の量産開始を予定し製品仕様の最終調整と量産体制の構築を進めるとともに、海外展示会でのグローバル市場への認知拡大も図ってまいります。

● PFASフリータイプと従来品の発光性能比較

※写真はPFASフリータイプ品の発光性能が、従来品と同等以上であることを示しています。

PFASフリータイプ

従来品



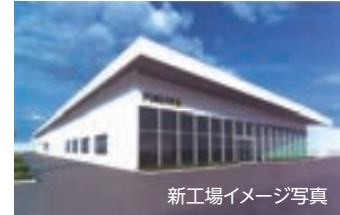


成長投資

高性能フェノールフォーム断熱材『フェノバボード』の第2生産拠点を建設します

当社が100%出資する連結子会社であるフクビ岡山株式会社は、経済産業省公募の「中堅・中小企業の質上げに向けた省力化等の大規模成長投資補助金」の採択を受けました。

フクビ岡山株式会社は高性能フェノールフォーム断熱材『フェノバボード』の国内唯一の生産拠点ですが、「高性能フェノールフォーム断熱材『フェノバボード』の第2生産拠点建設による生産能力強化と、新たな用途・市場への貢献を通じた革新と成長を追求した大規模投資計画」のもと、補助金を活用して第2工場を建設、生産能力強化を図ることで当社グループの成長につなげてまいります。



R&D

熱可塑性炭素繊維複合材(CFRTP)のNEDO事業を完遂しました

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の助成プログラムを活用し、福井県工業技術センターと共同開発を進めてきた、熱可塑性炭素繊維複合材(CFRTP)の一貫製造プロセス開発において、NEDO事業を完遂し、CFRTPの量産体制を整えることができました。

CFRTPは軽量・高強度で耐熱性が高いという特長から、自動車分野をはじめ、航空機や宇宙分野においても今後需要拡大が見込まれています。

今回確立した一貫製造プロセスでは、従来成形が困難であった高耐熱樹脂を用いた複合材の量産が可能になり、生産性の向上とともに、低コスト化と製造エネルギーの大幅な削減が可能となりました。



薄膜フィルム



薄層プリプレグシート



チョップドシート



プレス成形品

IR

個人投資家向けオンライン説明会、名証IRエキスポ2025に参加しました

大和インベスター・リレーションズ主催の「個人投資家向けオンライン説明会」、名古屋証券取引所主催の「名証IRエキスポ2025」に参加しました。

各イベントとも多くの個人投資家さまのご視聴・ご来場をいただきました。今後も引き続きステークホルダーの皆さまとの対話を深め、さらなるIR活動の拡充に努めてまいります。



間伐材で実現する
美しい木の質感と
高い耐久性を併せ持つ
新しい木粉ウッドデッキ

KKAA X FUKUVI 

Deck ND KKAA

木のリアルに迫った再生木デッキ

デザイン監修：隈研吾建築都市設計事務所

Special talk

< 建築家 >

隈 研吾 氏

×

< 代表取締役社長 COO >

森 克則

対談動画は
こちら>>



両社の現代における環境問題に対する考えや、化学メーカーのこれからの役割についてを対談形式でお送りします。木材活用を化学メーカーとしてどのように実現していき、これからの建築という分野に入り込んでいけるのか。ぜひ動画をご覧ください。

カーボンニュートラルは日本以上に世界中で重要視され、設計の最低条件。

間伐材がこんなに素晴らしいテクスチャーになるのであれば、これは大きなオプションが手に入ったなという感じがしている。

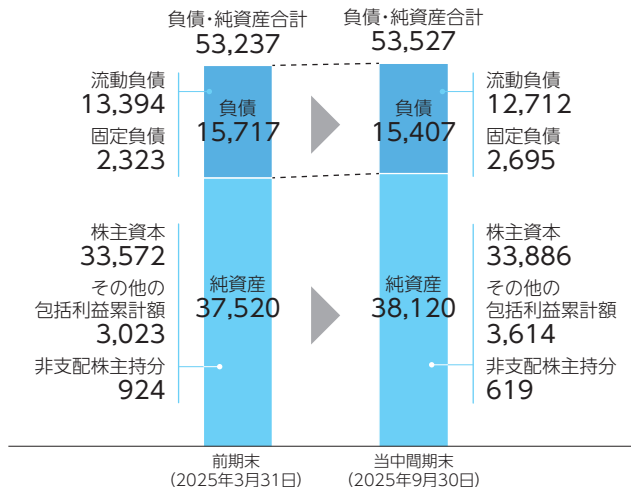
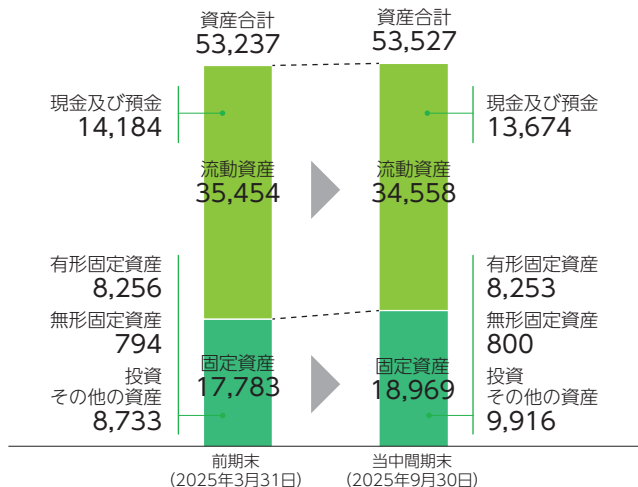
質感も木のリアルなところに迫っているので、
建築の空間の中に本物の木と同じような形で入り込んでくる材料。

建築空間は木を使いたくても、今までは耐久性の問題や火災の問題などの色々な問題で制約があったものを、これからは木と化学の複合によって制約を突破できると思う。

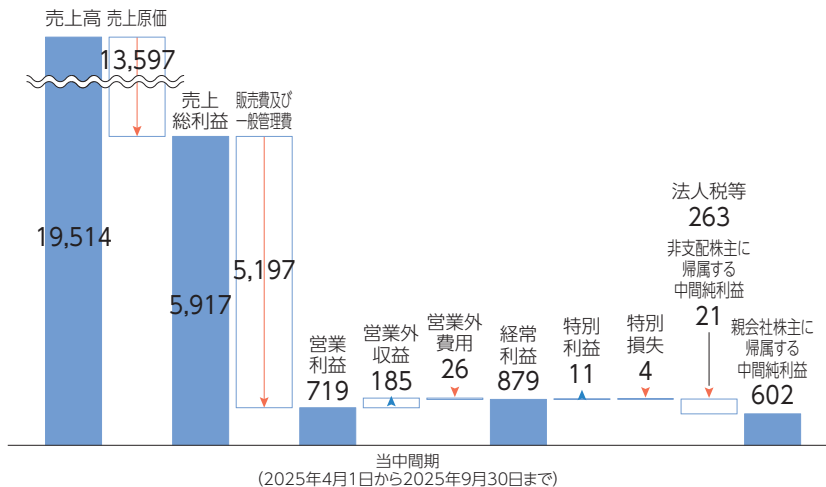
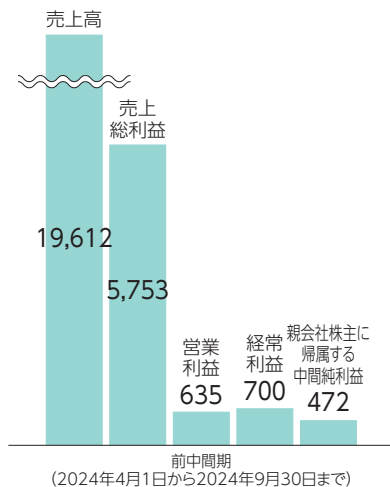
※隈 研吾氏コメントより抜粋

連結財務諸表の概要

資産の状況 (百万円)



損益の状況 (百万円)



会社の概要

会社の概要

(2025年9月30日現在)

創 立 1953年5月25日

資 本 金 21億9,390万円

U R L <https://www.fukuvi.co.jp/>

取締役・監査役、顧問

(2025年9月30日現在)

代表取締役会長 CEO 八 木 誠一郎

代表取締役社長 COO 森 克 則

取締役専務執行役員
経営戦略本部長 CFO 多比良 幸 一

取締役常務執行役員
生産イノベーション本部長
CTO 小 林 俊 幸

取締役 岩 淵 滋

取締役 諫 山 滋

取締役 南 保 勝 仁愛大学 人間学部
コミュニケーション学科
特任教授

常勤監査役 大 畑 忠

監査役 戸 田 和 範 戸田和範税理士事務所長

監査役 橋 爪 麻紀子 株式会社日本総合研究所
創発戦略センター
シニアマネージャー

顧問 鎌 田 昌 利 長瀬産業株式会社
取締役常務執行役員

顧問 松 田 邦 紀

顧問 采 野 進

各事業セグメントの概要

建 材 事 業 外装建材、内装建材、床関連材、システム建材等の開発・製造・販売および建設工事設計施工

C S E 事 業 住宅設備、車両分野を主としたユーザーからの受注によるOEM製品・ODM製品等の開発・製造・販売

精 密 事 業 反射防止付樹脂シートを主とする機能性コーティング製品の開発・製造・販売

グローバル事業 海外市場向けの外装建材、内装建材等の開発・製造・販売

株 主 メ モ

事 業 年 度 4月1日から翌年3月31日まで

定 時 株 主 総 会 毎年6月に開催いたします。

基 準 日 定時株主総会の議決権 3月31日
期 末 配 当 3月31日
中 間 配 当 9月30日

※その他必要がある場合は、あらかじめ公告する一定の日

公 告 方 法 電子公告により行います。
ただし、電子公告によることができないやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

<https://www.fukuvi.co.jp/>

上 場 証 券 取 引 所 東京スタンダード市場・名古屋メイン市場
単 元 株 式 数 100株

株主名簿管理人および
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

株 主 名 簿 管 理 人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
事 務 取 扱 場 所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-0063

(電 話 照 会 先) 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)

ご注意

未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行全国本支店にてお取扱いいたします。

株主さま工場見学会のお知らせ

当社では、株主の皆さまにより一層当社へのご理解を深めていただくために工場見学会を開催いたします。
皆さまのご応募を心よりお待ちしております。

- **対象者** 30名さま(ご同伴者さま含む)
2025年9月30日現在、
当社株式100株以上ご所有の株主さま。
※株主さま以外に、1名さまのご同伴が可能です。
なお、安全上の配慮から、ご同伴者さまは中学生以上とさせていただきます。また当日申し込みはお受けできません。

- **開催日時** 2026年3月19日(木)13:00~17:00

- **開催場所** フクビ化学工業株式会社 本社
(福井市三十八社町33-66)
本社工場 および ショールーム

- **見学内容** 本社工場、ショールーム見学、質疑応答など。
※ご見学時は、1時間程度(予定)の徒歩移動、バスの乗り降りや階段の昇り降りがございますので、ご了承ください。

- **参加費用** 無料
※集合・解散場所(JR福井駅東口を予定)までの往復交通費・宿泊費等は、株主さまのご負担となりますので、お申し込みいただく場合には、ご了承ください。
※集合・解散場所と当社の往復は当社手配のバスで移動いただきます。

- **その他**
 - 駐車場の用意はございませんので、恐れ入りますが、当社へのお車での直接のご来場はご遠慮願います。
 - 株主さまご本人からのご応募でない場合、ご応募は無効とさせていただきます。

● 前回開催の様子



お申し込み方法

見学を希望される株主さまは、同封の「株主さま工場見学会 応募はがき」に必要事項をご記入いただき、2026年1月9日(金) 必着にてご応募ください。

個人情報保護のため、同封の「個人情報保護シール」を個人情報記載欄の上に貼付し、ご投函ください。
※お申し込み多数の場合は厳正な抽選とさせていただきます。抽選結果は、お申し込みいただいた皆さまへ、2026年1月下旬に発送(郵送)予定です。なお、ご当選された方には、当日の運営詳細等も併せて通知いたします。

記入例

株主番号(9桁)		明細の(仮当座付替書)右上に記載の9桁の数字								
株主さま	ふりがな	1	2	3	4	5	6	7	8	9
株主さま	ふりがな	ふ	く	び	た	ろ	う			
お名前	福美 太郎									
ご住所	〒918-8585 福井 県 越 前 市 三十八社町33-66									
性別	<input checked="" type="radio"/> 女		年齢		50 歳					
電話番号	0000-00-0000 ※住所欄のなれは電話番号もご記入ください。									
ご同伴者さま(1名さままで)										
株主さま	ふりがな	ふ	く	び	は	な				
お名前	福美 花子									
性別	男・ <input checked="" type="radio"/>		年齢		50 歳					

ご送付先およびお問合せ先

福井市三十八社町33-66
フクビ化学工業株式会社 広報・IR推進室
TEL:0776-38-8415 8:30~17:00(土日・祝日、当社休日を除く)

独自の技術で未来をひらく



この事業報告書は、
環境に配慮し、植物油インキ
を使用しております。

